



2010年 第1号 VOL. 160

発行：日本特撮ファンクラブG

(担当：陸下こと大井 明)

発行人：〒340-0044

埼玉県草加市花栗 1-13-10 今井 康了

恒例のG祭が終わって早4ヶ月。新ライダーやウルトラ兄弟映画が関連雑誌を飾った年末年始も過ぎて、やや寂しい春ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか？東宝、いや当方は色々買い貯めたソフビ怪獣を塗装しようにも外は寒すぎ、中ではサーフェイサーが飛散してしまうのでどうにも身動きが出来ない毎日です。春が恋しいのは花見客だけじゃないんですね。

滅多に見るものでもない特撮映画？イタリアンスペースオペラ！

玩具系雑誌を賑わす新作情報以外で特撮的な話題が少ない昨今、昔から気になっていた情報に接する機会がありましたので、ちょっとご報告。

かつてスターウォーズブームの時、世界の宇宙SF映画を紹介するムックが幾つか発売されましたが、徳間書店のTOWNMOOKの一冊で、UFO研究者として有名な南山宏氏が編集した「スペースSF映画の本」という本がありました。世界にはこんなに宇宙SF映画があったのかと関心しつつ、殆どがアメリカ、日本、イギリス作品という事実を前に、「そんなに世界には宇宙船や怪獣が活躍する映画がある訳では無い」と寂しく思ったものでした。そんな中、金星ガニで有名なポーランドの「金星ロケット発進す」を除けば、イタリア製作の「担当-外宇宙」と「惑星大戦争」という、SPIP号みたいな宇宙船が紹介されている2作品は非常に気になる存在でした。イタリアというとローマがあってバチカンがあって、芸術や宗教の国という印象ですが、そんな国で1960年前後に「宇宙大戦争」や「妖星ゴラス」みたいな映画が存在したのか・・・そんな記憶も殆ど忘れていた昨今。

こんな余り気にする人もいなさそうな作品がDVDになって目の前に現れた！！・・・とは言っても、有限会社フォワードという会社がマイナーなSFホラー作品の、劣悪なプリントでも、一部マニアが好きそうな作品を集めて、780円という低価格で発売したシリーズの一環として、パッケージの裏の写真を見ても、16ミリか8ミリか、退色にピンボケで、フルハイビジョン画質が当たり前になりつつある世間に喧嘩売ってるかの様ないかがわしさ漂う企画モノ。その気迫に、とりあえずワイン1本分捨てる気持ちで購入してみました。それが、まあ中々、一見には値する作品であり、歴史にifは無意味ではあるけど誰もが「もしこの流れが続いていたら」と思う妄想も含めて、色々感じるべきものがありました。では、「担当-外宇宙」(DVD題名は「SOS地球を救え」、アメリカ版題名は"ASSIGNMENT OUTER SPACE"、原題は"SPACEMEN"。以下「スペースメン」)、「惑星大戦



(DVDのジャケットも、妖しさが漂っておりますね)

争」と思しき作品（DVD題名は「地球最終戦争」、アメリカ版題名は” Battle of the Worlds”、原題は” Il Pianeta degli uomini spenti”。以下「戦いの世界」）について少々お付き合い下さい。

「スペースメン」は、1960年、日本では「宇宙大戦争」が既に過去の作品になった時期の作品。詳しい物語はこれからでも入手可能な作品なので、概略だけ説明しますと、宇宙ステーションに赴任したトップ屋が、人員を番号で呼称する冷酷な司令官に反発する。その時、地球に接近する光子ロケットー超高熱を発しながら地球を破壊する危険のある存在と化した物体、これを回避するために、ステーションのクルーは尽力し、司令官はクルーの危機に本名を呼び励まし、実は誰よりも部下を気に懸けていた事が分かる。光子ロケットはバリアを張っているためミサイルでの迎撃は不可能だが、そのバリアに隙間がある事が確認され、そこを狙っての有人攻撃が立案されるが・・・という物。

見た感じ、真っ先に思うのは、日本の特撮作品の素晴らしさ。宇宙船の発射シーンや、敵または味方ば爆発、消滅する事の演出だけではなく、そのシークエンスに至る前後の情景説明。これは日本の特撮、いや、1960年代では東宝だけが行っていた事でしょう。「スペースメン」だけではなく、日本の多くの映画会社も、シークエンスの説明を、ミニチュアと丸分りの技術と映像を信頼せず、ミニチュアカットを細かく分断し、本編カットをつなげて、何が起こったかを余り絵で説明せず、芝居や記録フィルムでごまかす事は多々ありました。「大巨獣ガッパ」「宇宙大怪獣ギララ」をよく見ると、東宝作品に比べて、ワンカット妙に短く感じられ、情感を演出する余裕が少なく感じる事があります。特撮でも被写体である怪獣が主役である怪獣映画はまだ良いのですが、「駆逐艦雪風」の大和沈没、「第三次世界大戦4 1時間の恐怖」、「あゝ決戦航空隊」等は、特撮カットの出来の良さに反して、「特撮は極力見せたく無い」とでも言わんとばかりの、映像の情感を拒否するかの様な細切れな編集がなされています。

これは、東宝だけが、特撮カットが映像として独立し、本編以上に映画の見せ場になる事を認識した事の特殊性を改めて再認識させる事なのでしょう。

まあ、「スペースマン」の特撮技術は、東宝のロケット発射シーンの中でもイマイちな「大怪獣バラン」のロケット発射シーンや、大映の「大怪獣ガメラ」Zプランと比較しても酷いものなので、これを長廻しするのも勇氣は要るでしょうが、観客を強引に宇宙に連れ出すには、もうミニチュアに目を慣らして頂くより無いのではないのか、等と思いました。

特撮の見せ場(?)は、主役の三段ロケットBZ88（バブルズーエイティエイトと聞こえます）が、高熱を発生し地球を破滅させる光子ロケットを迎撃するために並走し、これに黒人の老練スペースマンが旧型宇宙船で攻撃を試みるシーン、最後光子ロケットを無力化したトップ屋が閉じ込められ、非情に見えて実は熱血漢だった司令が救出するあたりなのですが、やはり、円谷特撮を見慣れた私には、本編と特撮が分離したフィルムにしか見えません。

それでも、一見クールで実は熱血な司令の愛人だったオペレーターがトップ屋に情が移ってしまったり、トップ屋を応援しつつ司令官を補佐するため光子ロケットに肉薄する黒人のベテランパイロットなど、本編もそれなりのドラマがあり、決して「B級」と軽蔑する作品ではないのではないかと楽しませてもらいました。

さて、もう一方の「戦いの世界」、実はこれは、先述の「スペースSF映画の本」で紹介されていた「惑星大戦争」と多大な混同のある作品でした。この本にある1965年の作品は、” WILD, WILD PLANET”という作品で、本で「地球に変調をもたらした惑星はコンピューターが支配していた」という内容ではなく、宇宙ステーションで誘拐事件が続発し、その犯人は4本腕の合成人間と、彼らを操るマッドサイエンティストだった、という別の作品でした。コンピュータ惑星の話は、1961年製作の、「戦いの世界」でありました。同書掲載のロケット、BZ88と全く同じロケットも、「戦いの世界」では番号を消してバッチリ再登場しております。

で、こちらの内容は・・・人里離れた海辺にある宇宙研究所で、人間嫌いの偏屈な科学者が、地球の危機を予測

する。外宇宙から接近する小惑星が地球を攻撃する事を予見した科学者は、世界に対し自分に小惑星攻撃の指揮権を委譲する様訴えるが理解されない。科学者の弟子が指揮する地球の攻撃ロケットは、小惑星の円盤群に辛勝する。戦闘を勝利に導いた科学者は、小惑星調査隊に参加し、(透明ゴムホースを無数に並べて赤い照明で照らしただけの)中央コンピューターに出会う。科学者はコンピューターとの会話を主張するが、地球軍は小惑星爆破のミサイルを放つ！一人コンピューターと対話に成功し、真理を知った科学者は「これをお前達(地球人)に教えることはもったいない」と笑いながら、小惑星の爆発と運命を共にした。

こちらの特撮の質感は全く「スペースメン」と同じですが、小惑星が放つ円盤と地球側のロケットの戦闘が、稚拙な高額合成で描かれます。円盤が放つ光線は割とまっすぐ合成されていましたが、先頭ロケット側はシネカリの様な醜く書き殴った光線で、我が目を疑います。また、最後の小惑星爆発など、同じくシネカリで光線を放射線状に手書きした驚きの拙さで、これまた唾然。こういう所がある程度しっかり出来ていれば、もっと作品の質が高まったでしょう、残念。

本編は、超越した頭脳を持ちながら偏屈な性格で世間に理解されない孤高の老科学者のワンマンショーで、結構引き込まれるものがありました。小惑星の正体＝地球攻撃を狙うコンピューターである事を知った科学者が、TV会議を通じて地球軍の代表者たちに「全ての指揮権を自分に渡せ」と主張するあたり、参加者を写すモニターが次々消えていく演出は、中々SFチックであり孤独さを演出する優れたシーンでした。「スペースメン」も司令官の孤独と情熱が描かれていましたが、こちらの科学者の描写は更に熱気と狂気を帯びた好演出でした。それだけに、特撮の未熟さが一層残念。

この2作、アンソニー＝ドーン、本名アントニオ＝マリゲルティによる製作・監督で、彼は先述の「惑星大戦争」の他にも、「惑星からの侵略」とか「さまよえる惑星」等などのSF映画、「地獄の謝肉祭」「キラール・フィッシュ」等などのホラー映画も製作し、その経歴は正にB級プロデューサーそのもの。しかし、こういうジャンルに拘り続けた理由は一体何なのでしょう？現在息子のエドアルド＝マリゲルティ(同じく映画監督)がホームページで業績を紹介していますが、広いヨーロッパの中で忽然と宇宙映画の歴史を作り続けたその理由は、気になります。ジェリー＝アンダーソンもイギリス映画の歴史の中では異質な存在ですけど、まだハマプロダクションの系譜が存在し、その延長線上という理解も出来なくは無い。何故イタリアなのか、っていう所が謎です。

恐らく、世界最大のチネチタ撮影所という映画文化発信地があり、そこで何がしかの影響を受けたのではないかと、マカロニウエスタンの様に、と類推できますが、それ以上は分かりません。そういえば、スターウォーズの時も「スタークラッシュ」という便乗作品を作ったのもイタリアでしたね。

さて、昔から気がかりだったイタリア製宇宙映画を2本鑑賞し、長年の懸念は消えたものの、予想していた通りのガッカリ度でして、改めて特撮を主体とした映画の難しさ、そしてアメリカには及ばないものの、日本特撮映画の異常な発展(しかも低予算での)の有難さ、稀有さを再確認してしまいました。

なお、このシリーズでは、「ロケットシップX-M」とか「嵐の惑星」とか、これまた「スペースSF映画の本」でしか見た事の無いマイナーな作品や、ホラー映画が多数発売されて居ます。780円と低価格なので、騙されることを楽しみに何本か買ってみるのもよいでしょう。出来れば、退色した上短縮されたものではなく、ニュープリントで見たいものですが・・・そもそもオリジナルネガなんて現存するのでしょうか？

掘り出し物？「空飛ぶ円盤恐怖の襲撃」がオークションに？！

何かもうマイナーSF特集になってしまいますが、先日（2月6日）、Yahoo オークションでちょっとした騒ぎがありました。何と、昭和31年、新東宝配給、国光映画制作、関沢新一監督作品「空飛ぶ円盤恐怖の襲撃」の16ミリフィルムが出品され、私の周りでも話題になっております。

この作品、見た人が殆どいない事では往時の「第三次世界大戦41時間の恐怖」と並んで横綱級、ビデオも発売されていなかった様なのですが、いきなり16ミリフィルムの出品。20万円で開始されたオークションは、「個人で死蔵すべきでない文化的に貴重なフィルム」との関係者の指摘を受け、出品者が一旦これを受け入れ出品が中止されました。その後、関係者との話で貴重なフィルムと再認識したのか、再度300万円という価格に変更され、出品され、本日（3月22日）現在、270万円という価格で出品されています。この金額では一般のファンではなかなか手の届く話ではありませんが、何らかの方法で公開されるような方向で折り合いがついて欲しい気がします。今後の顛末が気になります。

類似の話題と言えば、当会の鈴木氏ご執心の「海軍爆撃隊」も京都で発見されてから、公開を前提にデジタル修復されたはずですが、フィルムセンターで上映された以後、商品化の話題を聞きません。今回の「空飛ぶ円盤恐怖の襲撃」も「海軍爆撃隊」も、よほどの好事家でないと関心の無い作品なので、商品化しても回収が困難でしょう。このまま闇に消えてしまうのか、こちらも気になります。

そういえば、パール・バックの小説「THE BIG WAVE」（邦題：つなみ）を1960年に日米合作で映画化した「THE BIG WAVE」（邦題：大津波）も観られない作品とされています。津波のシーンを円谷監督が担当されていたというこの作品、1962年にアメリカでは公開されたようですが、日本では公開はされなかったとか。数年前、この幻のフィルムも東京で発見され、映画の舞台となった長崎県雲仙市で上映されたようですが、これもまた是非一般公開してほしい作品の一つです。

何か気になりますね、「大特撮」の巻末でしか見た事の無い映画とか。

久々の新境地開拓「大魔神カノン」

新しい特撮作品、ヒーロー番組がにぎわう春先ですが、玩具会社とのタグの無い新作も久々に登場します。4月2日よりテレビ東京系で放送予定の角川映画他の製作委員会による「大魔神カノン」。昨今ライオン丸とかシルバー仮面など旧作を独自解釈でリメイクするのが流行の様で、本作もまさにそんな雰囲気。何しろ大魔神なのに現代劇。ただ、制作費が10億円と結構な大作で、充実した特撮が期待出来そうです。一部の映像は角川が宣伝のためにYouTubeで公開しています。全26回の予定です。

特撮時代劇というと「大魔神」シリーズは言うに及ばず、「大忍術映画ワタリ」「怪竜大決戦」「仮面の忍者赤影」「怪傑ライオン丸」等等、今のヒーロー作品のパターンに当てはまらない、自由奔放なエネルギーがあり、近年でも「さくや妖怪伝」「妖怪大戦争」など往時をしのばせる(?)作品が製作されました。先日終了の「侍戦隊シンケンジャー」も一部そんな和風な感じがありましたが、一度「赤影」の様な荒唐無稽な世界で大特撮映像を思う存分暴れ回らせて欲しいものです。

今回は重箱の隅をつつくマニアックな作品から最新作までの御紹介、いつもよりはバランス良い(?)ニュースとなりました。圧倒的に前者の比率が高い気もしますが。

今後ちょっと気になるモノを探して紹介できればと思っております。